

豊後大野市備蓄計画

(令和 7 年度～11 年度版)

令和 7 年 3 月

豊後大野市

目次

はじめに	1
1 基本的な考え方	2
2 想定最大避難者数	2
3 備蓄品目	2
4 備蓄目標数量の考え方	4
5 整備（購入）計画	7
6 備蓄場所	7
7 流通備蓄	7
8 救援物資	8
9 家庭内備蓄	8
10 企業・事業者等における備蓄	9
別表1 備蓄目標数量算出にかかる根拠等	10
別表2 年度別備蓄計画	11
別表3 備蓄場所一覧	12

はじめに

平成23年3月に発生した東日本大震災では、地震の規模がマグニチュード9.0、最大震度7と日本での観測史上最大となり、この震災による被害は、死者・行方不明者約22,000人、家屋の全壊・半壊は400,000戸以上で広範囲にわたり甚大な被害をもたらした。

この東日本大震災では、地震の揺れや津波、液状化現象などによって広大な範囲で被害が発生し、道路、鉄道、港湾など、都市の基盤施設に大きな影響を及ぼし、各種防災対策の整備に大きな教訓を加えることとなった。

その後も平成28年「熊本地震」、平成30年「北海道胆振東部地震」、令和6年「能登半島地震」といった最大震度7の地震を経験し、その都度、災害対応についての分析・見直しが行われてきたところである。

大分県が能登半島地震を受け、令和6年9月に改訂を行った「災害時備蓄物資等に関する基本方針（以下、「基本方針」という。）」では、東日本大震災における避難者数を大分県の人口に換算（沿岸部17.5%、内陸部3.8%）した18万人を最大避難者数と想定して備蓄目標量を算出している。

この基本方針に基づき、大綱的な防災計画を補完し、全市的な備蓄体制強化の観点から「豊後大野市備蓄計画（令和7年度～11年度版）」を策定する。

今後はこの計画に基づき、自助・共助・公助の考え方から、市民による日頃からの家庭内備蓄等を促進するとともに、流通備蓄及び救援物資の調達手段も含め、市民・企業・行政が、日頃からの備えや災害時の適切な対策を講じることができるよう、体制を強化していくこととする。

なお、本計画は、新たな被害想定や課題が生じた場合には、その都度検討し、修正するものとする。

1 基本的な考え方

震災時は、被災地域における流通機能が停止したり、外部からの救援物資が届きにくい状態になることが懸念されることから、市民に対し、日頃から被災直後に必要な物資を備蓄するよう推進している。

しかしながら、震災時には、家屋の倒壊、焼失等により、多数の避難者、負傷者の発生が予想される。このため、本市としては、自助・共助を基本としつつ、食料、生活必需品及び災害応急対策に必要な資機材を備蓄する。

2 想定最大避難者数

東日本大震災を踏まえ、大分県は最大避難者数を18万人と想定している。

本市における最大避難者数は、本市の人口に東日本大震災時における内陸部の最大避難者数の人口割合（内陸部3.8%）を乗じた1,300人を最大避難者数と想定する。

県・市	人口（A）	避難者割合（B）	A × B
大分県全体	1,123,852人	海岸部17.5%、内陸部3.8%	173,058人
豊後大野市	33,695人	内陸部3.8%	1,280人

※人口（A）は令和2年国勢調査による

3 備蓄品目

国が行うプッシュ型支援は遅くとも発災後3日目までに県の広域物資拠点に届くこと、及び大分県道路啓開計画において地域内防災拠点を結ぶルートが優先啓開となっていることから、4日目以降は一般流通経路が回復し県外からの救援物資が届くものと想定し、3日間の避難所生活に最低限必要とされる物資の備蓄を行う。

（1）主要4品目

命を守るために最低限必要な食料及び飲料水を備蓄する。

品 目	内 容
主食	高齢者、乳幼児、アレルギー体質等の人にも対応出来る主食（アルファ米、パン等）を選定し備蓄する。
副食	高齢者、乳幼児、アレルギー体質等の人にも対応出来る副食（基本的にそのまま食べられるもの）を選定し備蓄する。
飲料水	飲料用として、長期保存が可能な保存水を備蓄する。500mlのペットボトルでの備蓄を基本とし、民間事業者との提携も含め効率的な備蓄に努める。
毛布	毛布は代用品として、一部アルミブランケットで備蓄する。

（2）要配慮者に必要な物資

高齢者や乳幼児、障がい者などの要配慮者が避難生活を送るうえで必要な生活必需品を備蓄する。

品 目	内 容
粉ミルク	乳幼児用として粉ミルクを備蓄する。また、アレルギー体質の乳幼児に対応した粉ミルクも備蓄する。
紙おむつ (乳幼児用・大人用)	紙おむつが必要な乳幼児、高齢者等のために紙おむつを備蓄する。各サイズを考慮して備蓄する。
生理用品	生理用品が必要な方のために必要数を備蓄する。
簡易トイレ	簡易トイレが必要な方のために必要数を備蓄する。
段ボールベッド	直接床に座れない方、横になれない方等のために必要数を備蓄する。

（3）携帯トイレ

全避難者のために必要量を備蓄する。

（4）感染症対策物資

感染症対策のために必要な物資を備蓄する。

- ・マスク
- ・アルコール消毒液

（5）ブルーシート

半壊家屋のためにブルーシートを備蓄する。

4 備蓄目標数量の考え方

主要4品目、要配慮者に必要な物資、携帯トイレ、感染症対策物資、及びブルーシートの備蓄目標数量は想定最大避難者数（以下、「最大避難者数」という。）から算定する。そのほかの根拠は国や県が定めた根拠より算出する。

（別表1 備蓄目標数量算出にかかる根拠等）

（1）主要4品目

品 目	備 蓄 目 標
主食	最大避難者数3日分の必要量のうち、1日分を市と県で1／2ずつ備蓄し、1日分を流通備蓄（流通物資）（以下、「流通備蓄」という。）で、残りの1日分を、自助（共助）で対応する。 $1,300\text{人} \times 3\text{食} / \text{日} \times 1 / 2 = \underline{1,950\text{食}}$
副食	最大避難者数3日分の必要量のうち、1日分を市と県で1／2ずつ備蓄し、1日分を流通備蓄で、残りの1日分を、自助（共助）で対応する。 $1,300\text{人} \times 3\text{食} / \text{日} \times 1 / 2 = \underline{1,950\text{食}}$
飲料水	最大避難者数3日分の必要量のうち、1日分を市と県で1／2ずつ備蓄し、1日分を流通備蓄で、残りの1日分を、自助（共助）で対応する。 $1,300\text{人} \times 3\ell / \text{日} \times 1 / 2 = \underline{1,950\ell}$ ※1人1日当たりの必要量：3ℓ
毛布	最大避難者数1人に対し2枚を必要量とし、1／2を市と県それぞれ1／2ずつ備蓄し、残りの1／2を流通備蓄で対応する。 $1,300\text{人} \times 2\text{枚} \times 1 / 2 \times 1 / 2 = \underline{650\text{枚}}$

(2) 要配慮者に必要な物資

品 目	備 蓄 目 標
粉ミルク	<p>最大避難者数3日分に対する0歳児人口比率の必要量のうち1／2を市と県それぞれ1／2ずつ備蓄し、残りの1／2を流通備蓄で対応する。</p> <p>$1,300\text{人} \times 0.73\% \times 140\text{g} \times 3\text{日} \times 1/2 \times 1/2 = \underline{1,000\text{g}}$</p> <p>※0歳児の割合：0.73%（県算出）</p> <p>※1人1日当たりの必要量：140g</p>
紙おむつ (乳幼児用)	<p>最大避難者数3日分に対する0歳～2歳児人口比率の必要量のうち1／2を市と県それぞれ1／2ずつ備蓄し、残りの1／2を流通備蓄で対応する。</p> <p>$1,300\text{人} \times 2.28\% \times 8\text{枚} \times 3\text{日} \times 1/2 \times 1/2 = \underline{180\text{枚}}$</p> <p>※0歳～2歳児の割合：2.28%</p> <p>※1人1日当たりの使用枚数：8枚</p>
紙おむつ (大人用)	<p>最大避難者数3日分に対する必要者割合の必要量のうち1／2を市と県それぞれ1／2ずつ備蓄し、残りの1／2を流通備蓄で対応する。</p> <p>$1,300\text{人} \times 0.5\% \times 8\text{枚} \times 3\text{日} \times 1/2 \times 1/2 = \underline{50\text{枚}}$</p> <p>※必要者割合：0.5%（国算出）</p> <p>※1人1日当たりの使用枚数：8枚</p>
生理用品	<p>12歳から51歳の女性割合に1人1期間当たり必要量のうち1／2を市と県それぞれ1／2ずつ備蓄し、残りの1／2を流通備蓄で対応する。</p> <p>$1,300\text{人} \times 15.79\% \times 30\text{枚} \times 1/7 \times 3\text{日} \times 1/4 \times 1/2 \times 1/2 = \underline{170\text{枚}}$</p> <p>※12歳から51歳の女性割合：15.79%</p> <p>※1人1期間当たり必要枚数：30枚（国算出）</p> <p>※生理1期間日数：7日（国算出）</p> <p>※生理期間周期：4週に1回（国算出）</p>

品 目	備 蓄 目 標
簡易トイレ	<p>最大避難者数に対する必要者割合の必要量のうち1／2を市と県それぞれ1／2ずつ備蓄し、残りの1／2を流通備蓄で対応する。</p> <p>1, 300人×4. 85%×1／10×1／2×1／2÷<u>5台</u></p> <p>※避難行動要支援者割合：4. 85%</p> <p>※避難行動要支援者のうち10人に1人が使用見込み</p>
段ボールベッド	<p>最大避難者数に対する必要者割合の必要量のうち1／2を市と県それぞれ1／2ずつ備蓄し、残りの1／2を流通備蓄で対応する。</p> <p>1, 300人×4. 85%×1／2×1／2÷<u>20台</u></p> <p>※避難行動要支援者割合：4. 85%</p>

(3) 携帯トイレ

品 目	備 蓄 目 標
携帯トイレ	<p>最大避難者数3日分の必要量のうち1／2を市と県それぞれ1／2ずつ備蓄し、残りの1／2を流通備蓄で対応する。</p> <p>1, 300人×5回／日×3日×1／2×1／2÷<u>4,900個</u></p> <p>※1人1日使用回数：5回（県算出）</p>

(4) 感染症対策物資

品 目	備 蓄 目 標
マスク (不織布製・個包装の ものが望ましい)	<p>最大避難者数3日分の必要量のうち、1日分を市と県で1／2ずつ備蓄し、1日分を流通備蓄で、残りの1日分を、自助（共助）で対応する。</p> <p>1, 300人×1枚／日×1／2=<u>650枚</u></p>
アルコール消毒液	<p>指定避難所1箇所当たり6本を必要量とし、1／2を市と県それぞれ1／2ずつ備蓄し、残りの1／2を流通備蓄で対応する。</p> <p>27箇所×6本×1／2×1／2÷<u>41本</u></p>

(5) ブルーシート

品 目	備 蓄 目 標
ブルーシート	被害建物（揺れによる半壊建物）1棟当たり1枚を必要量とし、自助（共助）での備蓄を基本することとし、2／3を個人または自主防災組織で備蓄する。残りの1／2を市と県それぞれ1／2ずつ備蓄し、残りの1／2を流通備蓄で対応する。 1, 752棟×1枚×1／3×1／2×1／2=150枚

5 整備（購入）計画

保存期限を有する食料及び飲料水等については、計画的に更新を行い、保存期限を迎える前年度に、地域の防災訓練で配付するなど、市民の防災意識の高騰を図るために利活用する。

（別表2 年度別備蓄計画）

6 備蓄場所

備蓄場所は、被災者の臨時の・一時的な滞在・宿泊場所となる「指定避難所」に指定されている施設とする。この他、各地域への緊急物資を補完・補充するために各支所等を選定する。

（別表3 備蓄場所一覧）

7 流通備蓄

食料及び飲料水、生活必需品等に関して、市内にある業者等と協定を締結し、災害時に必要な物資を調達できる体制を構築するとともに、流通備蓄が有効に機能するよう体制を強化する。

【物資供給等に関する協定一覧】令和6年12月現在

協定名	締結先
災害時におけるエルピーガス供給に関する協定	社団法人大分県エルピーガス協会大野支部
大規模災害時における応急生活物資供給等に関する協定	生活協同組合コープおおいた
災害時における物資供給に関する協定	N P O 法人コメリ災害対策センター
災害時における石油類燃料の供給等の協力に関する協定	大分県石油商業組合豊肥支部豊後大野部会

8 救援物資

国や県、近隣の各自治体等と連携・協力し、救援物資の受入体制の強化に努める。

【救援物資等に関する相互応援協定一覧】令和6年12月現在

協定名	締結先
大分県及び市町村相互間の災害時応援協定	大分県及び県内市町村
災害時相互応援協定	竹田市
災害時相互応援協定	臼杵市
災害時相互応援協定	東京都台東区
大規模災害時における相互応援協定	佐伯市、竹田市、延岡市、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町

9 家庭内備蓄

市民に対して、ローリングストックによる備蓄方法を啓発するなど、最低3日分、推奨1週間分の食料及び飲料水、生活必需品等の家庭内備蓄を呼びかける。

このほか、令和7年度より、豊後大野市自主防災組織等活動事業補助金の補助対象に備蓄食料品、備蓄飲料水を加えるため、自主防災組織等へも補助金の活用を推進するなど啓発を行い、地域における備蓄についても促進を図る。

【家庭内備蓄品の例】

食料品	紙皿・紙コップ	常備薬
飲料水	マスク	お薬手帳
洗面・歯磨き用具	ペーパータオル	手指消毒液
手洗い用石けん	体温計	タオル・ハンカチ
ティッシュペーパー	着替え	携帯ラジオ
スリッパ	懐中電灯	携帯トイレ
使い捨て手袋	屋外活動用の防寒着	ブランケット
携帯電話・充電器	マッチ・ライター	鍋・やかん
カセットコンロ・カセットボンベ	寝具（タオルケット・毛布等）	ポリ袋（ゴミを入れられるレジ袋等）

10 企業・事業者等における備蓄

企業・事業者等は、管理する施設の耐震性・耐火性の強化等に取り組み、災害発生時に、従業員や来場者、帰宅困難者等の安全確保を図るとともに、応急措置を迅速かつ的確に講じることができるように、最低3日分程度の食料品及び飲料水、生活必需品、資機材等の備蓄の促進を図る。

【企業・事業者等の備蓄品の例】

食料品	アルミブランケット	長靴
飲料水	テント	自転車
医薬品	ラジオ	発電機
簡易トイレ	乾電池	燃料
毛布	軍手	衛生用品

別表1 備蓄目標数量算出にかかる根拠等

0歳児人口割合	豊後大野市人口 0歳児人口 割合	33,695人 (令和2年国勢調査) 154人 (令和2年国勢調査) 0.46 %
0歳～2歳児人口割合	豊後大野市人口 0歳～2歳児人口 割合	33,695人 (令和2年国勢調査) 480人 (令和2年国勢調査) 1.43 %
対象女性割合	豊後大野市人口 12歳～51歳女性数 割合	33,695人 (令和2年国勢調査) 5,318人 (令和2年国勢調査) 15.79 %
おむつ必要割合等	<p>「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画（令和5年5月23日 中央防災会議幹事会）」第5章3. プッシュ型支援による物資調達（3）基本8品目の必要量より 1人1日当たり必要枚数：8枚（乳幼児用、大人用） 必要者割合：0.5%（大人用）</p>	
生理用品必要割合等	<p>「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画（令和5年5月23日 中央防災会議幹事会）」第5章3. プッシュ型支援による物資調達（3）基本8品目の必要量より 1人1日当たり必要枚数：30枚 生理期間1期間：7日 生理期間周期：4週に1回</p>	
避難行動要支援者数割合	豊後大野市人口 避難行動要支援者数 割合	33,695人 (令和2年国勢調査) 1,631人 (令和6年9月1日時点社会福祉課聞き取り) 4.85 %
簡易トイレ必要個数割合等	<p>「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン（平成28年4月 内閣府防災担当）」3トイレの個数（目安）より トイレの平均的な使用回数：1日5回</p>	
アルコール消毒液の必要個数等	<p>受付2本、トイレ1本（断水時）、食事配布場所1本、清掃用1本、隔離室用1本の合計6本を想定 (参考：「避難所開設での感染を防ぐための事前準備チェックリストVer.2（人と防災未来センター）」)</p>	
ブルーシート必要枚数等	<p>「大分県地震被害想定調査（平成31年公表版）」第14編 各市町村の項目別被害表14-1「揺れ・液状化による建物被害」より 南海トラフ地震発生時の揺れによる半壊建物：1, 752棟</p>	

別表2 年度別備蓄計画

種別	番号	種類	目標数量	単位	令和6年度 末数量	購入(廃棄)数量					令和11年 度末数量
						7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	
主要4品目	1	主食(アルファ米、パン類等)	1,950	食	2,470	800 (1,950)	800 (832)	800 (816)	800 (816)	800 (750)	2,456
	2	副食	1,950	食	2,220	300 (420)	300 (294)	300 (300)	300 (408)	600 (600)	1,998
	3	保存水	1,950	ℓ	2,236	350 (336)	350 (372)	350 (372)	350 (336)	350 (336)	2,234
	4	毛布	650	枚	1,031						1,031
要配慮者に必要な物資	5	粉ミルク	1,000	g	25,600	25,600 (25,600)	25,600 (25,600)	25,600 (25,600)	25,600 (25,600)	25,600 (25,600)	25,600
	6	紙おむつ (乳幼児用)	180	枚	8,192						8,192
	7	紙おむつ (大人用)	50	枚	1,191						1,191
	8	生理用品	170	枚	1,008						1,008
	9	簡易トイレ	5	台	62						62
	10	段ボールベッド	20	台	490						490
ト携 イ レ	11	携帯トイレ	4,900	個	11,700						11,700
感染症対策物資	12	マスク	650	枚	14,550						14,550
	13	アルコール 消毒液	41	本	256						256
シブ ル ト	14	ブルーシート	150	枚	165						165

() 内は廃棄数量

主食、副食、保存水、粉ミルク以外は保存状況を勘案し、使用できなくなった場合は購入する。

別表3 備蓄場所一覧

施設名	住所	市設置 自主 避難所	指定緊急避難場所				指定 避難所
			洪水	土砂 災害	地震	その他	
1 菅尾小学校体育館 すがお地域交流センター	三重町浅瀬3304 三重町浅瀬3116		○	○	○	○	○
2 三重東小学校体育館	三重町小坂3959		○	○	○	○	○
3 大原総合体育館	三重町百枝1086-35		○	○	○	○	○
4 百枝小学校体育館	三重町西泉1512		○	○	○	○	○
5 中央公民館	三重町市場1200	○	○	○	○	○	○
6 三重中学校体育館	三重町内田1050		○	○	○	○	○
7 三重農村環境改善センター	三重町玉田1128		○	○	○	○	○
8 三重第一小学校体育館	三重町市場1062-1		○	○	○	○	○
9 新田小学校体育館	三重町久田1220		○	○	○	○	○
10 清川小中学校体育館	清川町砂田1795		○	○	○	○	○
11 神楽会館	清川町砂田810	○	○	○	○	○	○
12 緒方公民館	緒方町馬場41-1	○	○	○	○	○	○
13 緒方小学校体育館	緒方町馬場100		○	○	○	○	○
14 朝地公民館	朝地町坪泉494	○	○	○	○	○	○
15 朝地小中学校体育館	朝地町朝地2030		○		○	○	○
16 道の駅あさじ	朝地町板井迫1018-1		○	○	○	○	
17 大野小学校体育館	大野町田中2261		○	○	○	○	○
18 大野中学校体育館	大野町田中2135		○	○	○	○	○
19 大野公民館	大野町田中81-1		○	○	○	○	○
20 豊後大野市隣保館	大野町田中		○	○	○	○	○
21 大野支所	大野町田中55-1	○	○	○	○	○	
22 千歳公民館	千歳町新殿706-1	○	○	○	○	○	
23 千歳小中学校体育館	千歳町新殿761-1			○	○	○	
24 犬飼公民館	犬飼町田原1476	○	○	○	○	○	
25 犬飼小学校体育館	犬飼町久原711		○		○	○	
26 犬飼中学校体育館	犬飼町久原900		○	○	○	○	
27 犬飼支所	犬飼町犬飼28			○	○	○	